

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2024年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業265社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：157社（59.2%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

- －主要3項目DI全てが低下、採算は2期連続マイナス水準、約半数の企業で従業員が不足－
前年同期（2023年7月～9月）と比べた今期（2024年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2024年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは9.3で、前年同期と比べ13.0ポイント低下しました。業況DIは9期連続、売上DIは10期連続プラス水準で推移しましたが、採算DIは前期に引き続きマイナス水準となりました。卸売業と観光業は主要3項目DI全てがプラスを維持し、景況感を下支えしました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が課題で、半数弱の企業で従業員が不足しています。

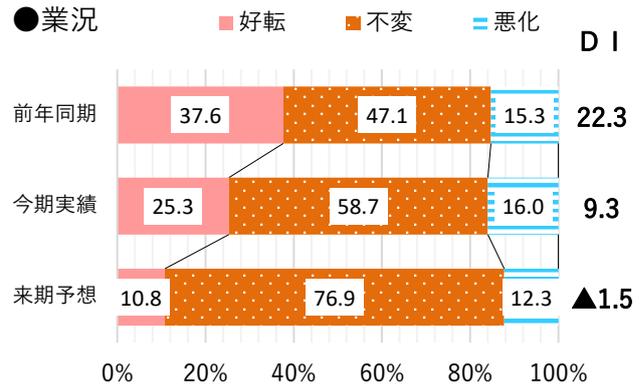
業種別業況DIは、製造業が同25.9ポイント低下の3.1となりました。主要3項目DI全てが低下し、売上DIと採算DIはマイナス水準となりました。金属加工では60%の企業で設備操業率が低下し、業況が悪化しました。食料品では88%、プラスチックでは全ての企業で原材料価格が上昇しました。卸売業は同18.2ポイント低下の5.6となりました。主要3項目のDI全てが低下したものの、いずれも0.0以上を維持しました。食料品は66%の企業で仕入単価が上昇しました。小売業は同21.7ポイント低下の0.0、採算DIはマイナス水準となりました。大型店を除く食料品や日用品を扱う企業の85%で商品仕入単価が上昇しました。運輸・倉庫業は同20.5ポイント上昇の13.3となりました。業況DI、売上DIともにプラス水準となりましたが、採算DIマイナス水準となりました。道路旅客運送は全社で従業員が不足しています。道路貨物運送は42%の企業で売上が増加、業況が好転し、堅調に推移しました。倉庫は全社で保管残高が減少し、75%の企業で売上と在庫量が減少、採算が悪化しました。観光業は同24.3ポイント低下の34.3となりました。ホテルでは81%の企業で客単価が上昇した一方で、仕入単価の上昇や従業員不足に直面しており、業況が好転した企業は36%にとどまりました。サービス業は同21.7ポイント低下の0.0となりました。採算DIがマイナスに転じ、飲食店、ビルメンテナンスの全社で仕入単価が上昇しました。建設業は横ばいの8.7となり、業況DIと売上DIはプラス水準を維持、採算DIはマイナス幅を縮めました。一般土木工事業の半数の企業で従業員が増加し、このうち60%の企業が適正人員を確保しました。

来期の業況判断DIは▲1.5で、業況がマイナスに転じると予想しています。業種を問わず、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足といった課題に加え、最低賃金の引き上げや閑散期における需要の低下が主な懸念事項です。観光業では、日本人客の減少が見込まれるものの、外国人客の増加が期待されています。

業況、売上、採算

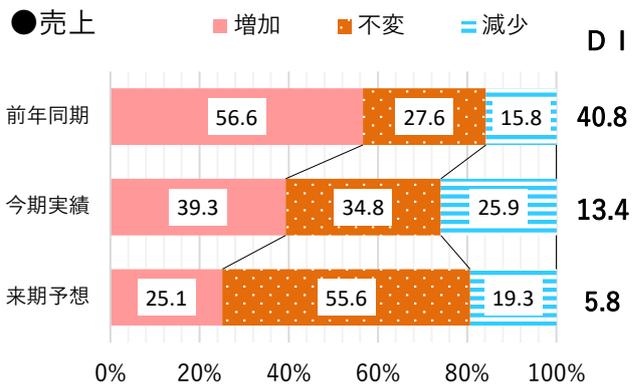
今期（2024.7～9）の業況判断DIは9.3で、前年同期（2023.7～9）と比べ13.0ポイント低下しました。

来期（2024.10～12）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



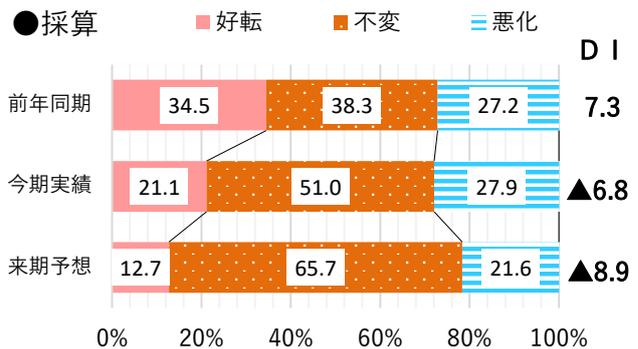
今期の売上DIは13.4で、前年同期と比べ27.4ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

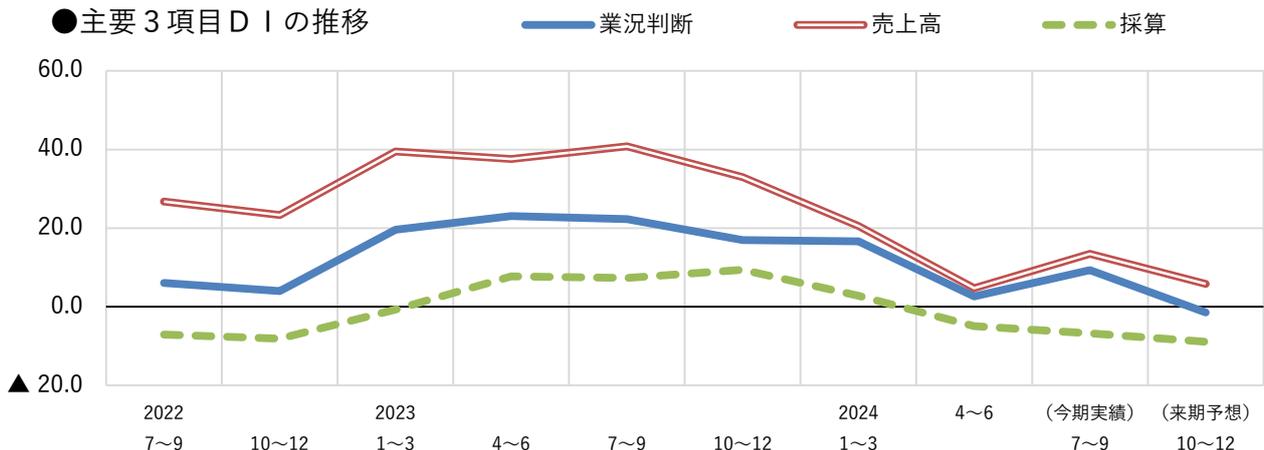


今期の採算DIは▲6.8で、前年同期と比べ14.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。



●主要3項目DIの推移



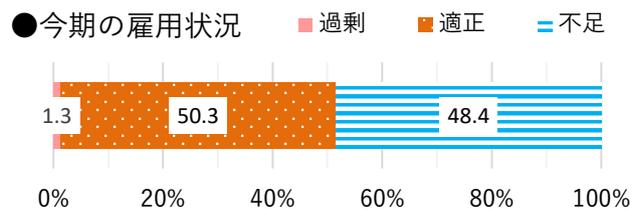
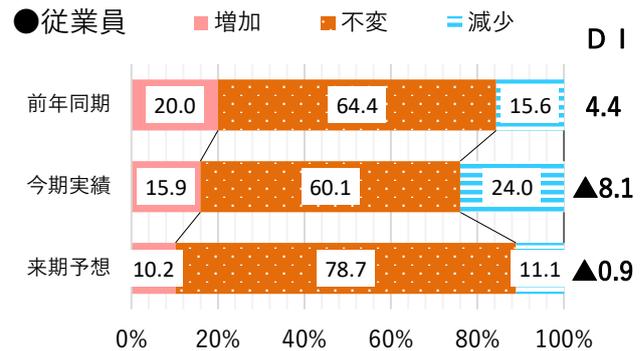
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.1で、前年同期と比べ12.5ポイント低下し、マイナスとなりました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.3%、適正であると回答した企業の割合は50.3%、不足していると回答した企業の割合は48.4%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、35.6%を占めました。48.4%の企業で従業員が不足している状況にあります。

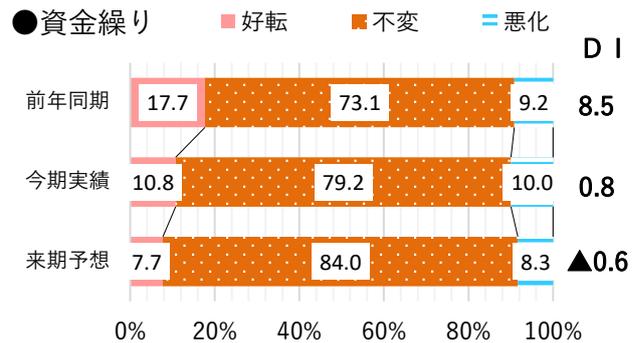


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	13
	不足	13
不変だった	過剰	1
	適正	56
	不足	34
減少した	過剰	0
	適正	10
	不足	29

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは0.8で、前年同期と比べ7.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった157社の45.9%にあたる72社が実施、前年同期と比べ5.0%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、40.1%にあたる63社が設備投資を計画していると回答しています。

